

クレディ・スイスおよびAT1債の混乱からの教訓・課題

角川 尚子

目 次

- 1. クレディ・スイス・グループの経営難から救済買収までの主な経緯
- 2. 他のG-SIBsへの影響
- 3. AT1債を巡る議論・規制動向など
- 4. 金融安定とAT1債を巡る教訓・課題

本稿では、クレディ・スイス・グループが経営難に陥り、2023年3月に競合のUBSグループに救済買収された背景やAT1債に与えた影響を整理するとともに、次の金融危機に備えるための教訓と課題をまとめた。規制動向の把握や丁寧な銀行ファンダメンタルズ分析が重要と考えている。

1. クレディ・スイス・グループの経営難から救済買収までの主な経緯

(1) クレディ・スイス・グループの経営難の主な背景

クレディ・スイス・グループ（CS）が経営難に陥りUBSグループ（UBS）による救済買収に至った主な背景は、大規模で急速な流動性の低下であり、個社要因のほか、市場環境などの外部要因も加わった。主な要因として、①複数の不祥事を抱えるなどガバナンスおよびリスク管理の問題、②顧客による信認の重要性が高いウェルス・マネジメント事業の資金・預金規模の大きさ、③赤字

が継続する中での複雑な事業再編策の公表、④米国地銀の破綻による銀行不安、⑤ソーシャルメディアを含むネガティブなメディア報道の急増とグローバルな情報拡散、⑥デジタル手段により行われる急速な資金移動、などが挙げられる。

CSはグリーンシルやアルケゴス関連で多額の損失を計上するなど不祥事が続き、投資銀行の収益改善も進まず、2022年12月期（会計年度）第3四半期（FY12/2022Q3）まで4四半期連続で純損失を計上した。2022年10月（2022年12月期第4四半期）にソーシャルメディアの噂を発端にCSの経営に不安が広がり、ウェルス・マネジメント事業の新規資金・資産（-950億ドル）



角川 尚子（かくがわ なおこ）

SMBC日興証券 金融経済調査部シニアクレジットアナリスト。慶應義塾大学大学院経済学研究科修士課程修了。大手会計事務所の国際税務部門、野村證券を経て、2020年4月より現職。